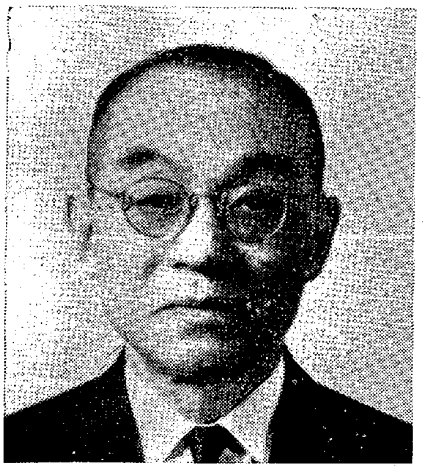
巻　頭　言



昭和35年を迎えて

会長　塩　沢　正　一

謹んで新年の御祝辞を申上げ，会員各位の御多幸を祈る．

昭和 31 年の神武景気も，またたく間に過ぎ去り不況沈滞の傾向を辿つていたわが鉄鋼業も，昭和 33 年秋以来世界の情勢の好転に伴い漸次立直りの機運に向い，その後景気の回復は順調に進み，工場の新設，設備の改善拡張等相次いで起り，技術革新により今日の所謂数量景気の出現となつた．即ち昭和 34 年の粗鋼生産高は 1750 万 t と予想され，世界の第5位を占めるに至つた．又昭和 45 年度における鉄鋼需要見通しには，内需 3400 万 t，輸出 400 万 t，合計 3800万 t があげられ，昨年6月ジュネーブで開かれた国連欧州経済委員会鉄鋼部会では，15 年後におけるわが国粗鋼生産高を 3700 万 t と推定し，米，ソ，中に次いで世界の第4位になるであろうと報じられた．一方通産省の鉄鉱石需給見通し中間案によれば，昭和 34 年度 1130 万 t，昭和 40 年度は 2500 万 t であつて，第三次鉄鋼合理化計画の遂行が鉄鉱石の面から行きづまるのではないかという懸念も解消したと，明るい見通しを立てている．かくの如く景気好況の原動力ともいうべき鉄鋼業の前途は，頗る明るい情勢にあることは，まことに御同慶に堪えないことである．然しながら，その前途必ずしも平坦ならず多くの難関が横たわつているから，その目的達成のためには並々ならぬ努力が必要であることは言をまたない．世界各国の鉄鋼需要の増大と資源の減少に伴う技術革新は驚くべきものがあり，これに追随して行くことさえ容易でないが，我々はただこれに追随して，その後塵を拝することに甘んずべきでなく，むしろ諸外国に率先して新しい科学技術の開発に努めねばならない，幸にしてわが国の鉄鋼業は戦後の設備の老化及び技術水準の立ちおくれを，設備の近代化と技術導入により，短時日に回復し，量的にも質的にも世界的水準に達し，主要製鉄国にくらべ驚異的な成果をあげている．願くば更に一歩を進め技術の輸出により世界的水準を超え指導者的立場に立たんことを祈る．そもそも最近の科学の進歩発達は飛躍的であつて，各国競つて研究に没頭して多大の成果をあげている．勿論わが国においても盛んに研究が進められ，世界に誇るべき幾多の成果をあげているが，諸外国にくらべると尚一歩を譲るものがある．その原因は主として研究費の貧弱と綜合研究の不徹底によるものと思う．先般来朝され特別講演をされたフランス鉄鋼研究所長アラール氏の御話によると，同所の研究費はフランスの鋼材生産高 t 当り 100 フランの寄附によるという．わが国においても粗鋼屯当り 100 円が醵出されるならば10数

億円の研究費を生じ，研究課題を定め，大学，研究所，会社等の研究機関が打つて一丸となつて研究に精進したならば驚くべき成果があがるであろう．なお通産省案によれば，試験研究促進のため各種研究機関への醵出金を非課税の対象とし技術革新に備えるという．潤沢な研究費と不断の努力により，よりよき成果があがるのであるから，これ等のことの一日も早く実現されんことを切望する．当協会も創立以来ここに 46 年を迎え，種々の変遷を経たが最近会員数も 6500 名を超え，維持会員として御支援下さる会社も 179 社を数え，八幡製鉄渡辺資金，石原研究資金等により協会の運営も軌道にのり，事業活動も年々躍進しつつあることはまことに喜びに堪えない次第である．今後も鉄鋼に関する学術技術の向上発展のために一層の努力を払い，広く海外の学協会及び関係機関と連絡を密にして，技術の交流を計り，真に権威ある団体として「わが国における鉄鋼事業の振興発達を期する」という当協会所期の目的達成のため邁進したい所存である．何卒会員諸君には一段の御協力を，また関係方面の各位には一層の御支援を賜わらんことを御願いする．

以上新年を迎えるに当り，いささか所感を述べ年頭の御挨拶とする．